

## 1 2年生の3学期は「3年生0学期」!?

## (1) 3年生の「予習」

学年末考査は終わりましたが、2年生としてはまだ1か月弱授業が続きます。この時期を「3年生の0学期」だと意識して過ごしてほしいです。君たちの大学入試は1日1日近づいてきています。何事もスタートダッシュを決めることが肝心です。この時期に「3年生」と自覚して過ごすことが、4月以降のスタートダッシュにつながります。では何から始めればよいでしょうか？ まずは3年生の1年間のおおよその流れを『進路の手びき』で把握しましょう。

## (2) 夢ナビ、PROG-Hを活かす

夢ナビで調べたことを活かして、「3年生0学期」のうちに自分の興味のある進路をしっかりと調べておきましょう。できたら、明確に目標を定めましょう。また、「学びみらいPASS」のPROG-Hに関しては『質実剛健2号』でその内容を説明しました。成長できましたか？

## 3 高い目標、第一希望を最後まで貫けるように…

## (1) 東大見学会にて

昨年末、東大見学会に行きました。その際にとても印象に残ったことがあります。それは東大生である本校の先輩がふと漏らした一言です。「刈高の友人たちはみんな東大に合格する力があるのに、なんでチャレンジしないのだろう」なぜ印象に残ったかという点、私もずっと同じようなことを感じていたからです。

共通テスト模試を実施した翌日に自己採点速報を毎回出しています。共通テスト本番の自己採点速報は進路指導室前掲示板に貼ってありますが、2年生の多くの人たちが立ち止まって見ていることが印象に残っています。その速報のコメント欄で最も多く使うフレーズは「**模試の結果に一喜一憂しない**」です。共通テスト受験後も「共通テストリサーチ」、「データネット」という模試と同じように判定が掲載されたものが返却されます。例年、この判定に左右される人が多いように感じます。刈高生が高い記述力（二次試験に対応する力）を持っていることは、各模試の結果からもわかっています。にもかかわらず、共通テストの判定だけに左右されて第一希望校（出願校）を下方修正してしまう人を過去に何人も見かけてきました。「もっと自信を持たせてあげられなかったかな」と猛省する一方、とてもはがゆくも感じています。

## (2) 自分の進路は自分で決める

共通テストから国公立大学の二次試験まで約40日あります。この期間は、7～8科目課された共通テストから科目数が減って集約的に時間をかけて学習ができます。この期間で目を見張る伸びを見せた先輩も多くみてきました。よく「現役生は試験当日まで伸びる」と言われますが、私は過去の経験から「現役生は試験当日の試験の時間内でも伸びる」と考えています。みなさんもどうか自分を信じ、高い目標を掲げ、第一希望を最後まで貫いてほしいです。出願校を決めるのは模試の判定ではありません。あなた自身です。直近の模試でD・E判定でも合格する人も少なくありません。高みを目指してこそ、そして少し難しいと思って取り組むことが持っている力を伸ばします（学習に限らず）。高い目標を立ててその実現に向けて計画的に行動することは、社会に出てからも求められます。大学受験を通して、成功のプロセスを学んでいってほしいです。受験勉強で身につくのは決して学力だけではありません。計画遂行能力、要領の良さ、苦手なことに向かう強さ…いずれにせよこの一年を真剣に頑張ることは、間違いなくこの先の人生の自信となります。いま目指している大学の模試の判定がA・B判定の人はもう一段階上を目指すべきです。

受験はカタログショッピングではありません。「自分がどうしたいか」、「自分

がどうなりたいか」が大事です。よく「とりあえず〇〇大希望」とか「つぶしがきくから〇〇学部」などという話を聞きます。可能性を秘めたみなさんは、とりあえずではなく、真剣に将来を考えてください。考える時期でもありません。

## (3) 「凡事徹底」

進路希望の実現に向けて、いま何から始めるか。とにかく**授業をしっかりと受けることが全ての基本**です。そして、進路希望実現への近道です。予習復習も含めて、どれくらいの方がこの「授業をしっかりと受ける」という当たり前のことができていくでしょうか。毎日掃除を続けていけば大掃除はいらないのと同様に、授業を毎時間しっかりと受けていけば、受験勉強時に下級生時の復習に時間を割きすぎずに学習が進められるはずで、まず目の前のできることを着実にやる「凡事徹底」から始めましょう。

## 4 高校卒業後の自分を真剣に考える

## (1) 大学案内を読んでみる

各教室に置いてあった東京大学と名古屋大学の入学案内を読んだことはありますか？大学の学部学科の紹介、具体的な教育内容、入試結果、学生生活、キャンパス案内等が掲載されています。まず、自分が興味ある大学のものは読んでみてほしいです。国公立大学の多くのは進路指導室で保管しています。興味があれば読みに来てください。

「名古屋大学で心理学を学びたいけど何学部にいけばよいか」という質問を毎年のように受けます。名古屋大学に関して言えば、心理学は文学部、教育学部、情報学部（人間・社会情報学科）で学ぶことができると大学案内等で調べるとわかります。幅広い心理学に関しても、学部によってやる内容は違います。これはほんの一例ですが、自分がやりたいことを学べる大学・学部学科にいくために、自分でしっかりと調べてほしいです。「やりたいことと違った」というミスマッチを自分で防いでください。

## (2) アドミッション・ポリシー

各大学案内の最初の方に、「アドミッション・ポリシー」が必ず掲載されています。「アドミッション・ポリシー」とは、端的に言えば各大学が表明している「入学者受け入れ方針」のことです。意識して読んだことはありますか？そこで、例として東京大学と名古屋大学の大学案内から抜粋したものを示します。

読んでみていかがでしょうか。難関大学においても、「高等学校でのきちんとした学び」や「基礎的な学力」が重要だということがわかんと思います。今一度、普段行われている授業をしっかりと受けることから始めてみましょう。

## (3) 志望動機

国公立大学の一般入試においても、志望理由書、エントリーカードといったものを提出する大学が増えています。医学科や教員養成系に多いですが、近隣の大学でいえば、名古屋工業大学においては、「エントリーカード」を出願者全員が提出することになります（前後期とも）。自分が受験しようと候補に挙げている大学に関し、明確な志望理由を答えられますか？

よく「選択肢がいくつかあって迷っています」という相談を受けることがあります。私はその際「自分のモチベーションが高まるように選んだらいいんじゃないか」と答えています。自分の具体的な進路を調べることが、自分のモチベーションを上げることになるのではないのでしょうか。

(文責 進路指導主事 岩崎 達哉)

参考資料：河合塾・駿台予備学校・ベネッセコーポレーション各種資料、進路の手びき（令和4年度）、『受験必要論』（林修著、集英社）、東京大学 大学案内 2023、名古屋大学 大学案内 2023